



特集

自由通路がひろく、 新しいまちの景色

— 常陸大宮駅東西自由通路が開通しました —

問 駅周辺整備推進課 ☎53-6501

大正7年の開業から108年、市の玄関口として利用されてきた常陸大宮駅。令和7年2月の新駅舎完成と、令和8年3月の東西自由通路の開通により、新たな常陸大宮市のシンボルとして生まれ変わりました。

パッと目を惹く、 木の屋根と大きな窓。

自由通路最大の特徴である木の屋根。その一部には美和地域産のスギを使用し、木材の良さを感じられる通路になっています。モチーフとなっているのは、200年もの間、塩田地区で受け継がれてきた、日本最古の組立式農村歌舞伎舞台「西塩子の回り舞台」。舞台のような大きな屋根が東西駅舎と自由通路をつなぐデザインになっています。

また、通路の壁にはベンチを新たに設けました。旧駅舎よりも多くの方が、雨や日差しを避けられる場所に座って、列車や迎えを待つことができるようになりました。

そして、駅のホームを見下ろせる大きな窓も印象的。雨風をしのぎながらも、通路に開放感を与えます。



待合室、エレベーター、トイレ 親しみとやさしさの新設備。



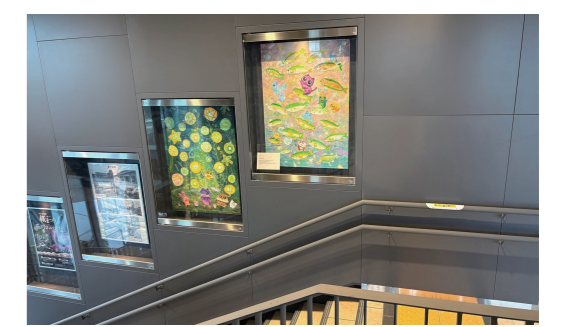
◀東口改札の隣にはモダンな雰囲気の待合室が外気を遮断し、冷暖房で夏は涼しく、冬は暖かく列車や迎えを待つことができます。全面ガラス張りで、開放感を感じられる空間となっています。



▲最大15人まで乗れるエレベーターを、通路の東側、西側に1台ずつ設けました。自転車が入れられる広々空間になっています。階段の上り降りが難しい人にも利用しやすい自由通路になっています。



▲これまでもあった男女トイレが新しくなったのはもちろん、誰もが利用しやすいバリアフリートイレを新設しました。



▲通路西側の階段には、常陸大宮大使である画家の寺門由紀さんと市内の子どもたちが制作した作品が並んでいます。

20年後、30年後に 大人になる子どもたちのために

——自由通路完成記念式典 鈴木市長あいさつ

「今をより良く」することも大切ですが、それ以上に「今市内に住む子どもたちが大人になったとき、どのような街並みを残してあげられるか」を考えることが、今を生きる世代の最大の使命だと強く思い、事業を進めてきました。事業に関わってくださった皆様に心より感謝を申し上げます。



令和8年度には 東口駅前広場を整備予定

今年度、通勤通学時の混雑が課題となっている東口駅前広場の整備工事を予定しています。駅周辺の整備の進捗は、特設サイト「カコイバ」で随時、お伝えしていきます。



特設サイト「カコイバ」



▲東口駅前広場整備予定場所